

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102071		
法人名	株式会社 アイケア		
事業所名	グループホームあいの街高塚 Aユニット(西棟)		
所在地	静岡県浜松市南区高塚町4514-1		
自己評価作成日	令和2年2月28日	評価結果市町村受理日	令和2年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2277201071-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様が安心して生活できるように接遇マナーに注意すると共にご本人の言葉に耳を傾け、希望に沿えるように努力しています。職員の定着率も高く、馴染みの顔が支援することで、ご入居者様が安心してサービスを利用して頂いていると思います。また、清潔感のある空間を提供できるように施設内外の清掃、整理整頓に心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR高塚駅から徒歩5分というアクセスの良さとともに、玄関前の寺院の借景や散歩コースにあるオープンガーデンなどの社会資源に恵まれ、閑静な住宅街にある事業所です。平均介護度は2.2ですが、要介護1~2と4~5の利用者にとり極端に分かれており、重度者の介護に時間を要する厳しい職員体制で外出支援が儘ならないことが課題です。それでもADLの高い利用者への支援が後追いとならないよう、気の合う人同士での会話を仕向けたり、ペットボトルの蓋で作った手作りパズルに取組んでもらったりと、現場の職員が工夫してその人が専念できる仕事やレクリエーションの提供に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の時に「社是」、「あいの街高塚理念」を復唱し、共有を図っています。本社より配布される「職場の教養」を読み上げ、職員が気づきを得るように努めています。	事業所理念「利用者様の誇りを尊重し安心して暮らせるよう～」は事務所に掲示し、朝礼で唱和しています。3年以上勤務する職員が7割となり、「親しさが増して礼節が欠けないように」、月に一度の定例会議では、「言葉遣いは～」等の留意点を繰り返し伝えていきます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に参加して頂いています。また、散歩のコースに寺、オープンガーデン、高塚駅を組み入れ、地域の方と挨拶などの交流をしています。自治会の草刈りなどに参加しています。	『子ども110番の家』として登録、自治会長が町内に発信くださっていることから、地域の一員としての認められていることが覗えます。7月は自治会の草刈りに、11月の町内の祭りでは休憩場所としてトイレを提供、子どもたちのお囃子、手踊りが披露されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談に来所された方への対応や、市内の中学校2校の福祉体験の受入れを実施しています。施設側からの発信が不足していると反省しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の利用状況、施設の取り組み、行事報告、事故報告を行い、助言や情報などを受けて改善に繋げています。事故報告は原因、改善策を示し、意見を頂いています。	運営推進会議は、身体拘束適正化を含む事業所の透明性を図る機会と捉え、偶数月の第4水曜日として定期開催とし、年度末に次年度の年間予定を配布して、出席率アップに努めています。時間は30分として、写真を添えてわかりやすく、在所率や事故データの報告をおこなっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、身体拘束適正化委員会に参加頂き、事業所の取り組みについて報告を行い、必要に応じて指導、助言を頂いています。	地域包括支援センターが主催する研修会には年2、3回参加に努め、「徘徊高齢者への声掛け訓練」では民生委員や地域住民とともに徘徊者への声のかけ方や対応方法を学んでいます。浜松ささえあいポイント事業所に登録をしていますが、現在受入れが途切れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会議にて、一般職員を含め、身体拘束適正化委員会の検討内容を話し合いをしています。また年2回の身体拘束にかかる研修を実施しています。	身体拘束廃止委員会開催は運営推進会議内とし、指針に盛り込んだ構成員で顔を揃えて報告会(協議は事前に定例会議で職員がおこなう)が叶っています。3要件に係る利用者は現在なく、玄関施錠については「防犯目的であればよい」と市に確認を取っており、何事も丁寧で安心です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止の一環として高齢者虐待防止法の研修をしています。また職員同士が互いに指摘しあえる環境作りに努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度、日常生活自立支援事業の研修を実施しています。今年度に入居者1名が制度を利用するためケアマネが支援をしました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を説明を行うときに、項目の都度、質疑に対応しています。法改正などによる契約変更の場合は書面をもって説明を行い、必要に応じて同意書を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人からは日々の会話から要望を汲み取るように努めています。家族は面会時、電話、Eメールで要望があった場合、速やかに対応するように心がけています。	担当職員がイベントでの様子や食事形態、ADL、認知症の進行など気になる様子を綴り、月に一度「あいの街便り」を作成、日常風景がわかる写真も同封のうえ、家族に郵送しています。家族会、アンケートはおこなっていませんが、家族とは面会でコミュニケーションを図っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	休憩時間にコミュニケーションを図ると共に、連絡ノート、朝礼を利用して職員の意見を吸い上げ定例会議で話し合いを行っています。	定例会議では運営面の意見交換をおこない、年に2回の面談では個別に職員の日頃感じていること、今困っていることを管理者が聴取しています。また、昼食は事務所で会食のようにするため、自然に愚痴を含み進言や提案がこぼれており、概ね管理者に意見が届いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の面談を利用して挑戦したい事、不満の有無などを確認しています。最低年5回、希望日の有給取得を実現しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、社内研修、外部研修の機会を設けスキル向上に繋げています。日々のケアで改善点があれば指摘するように心がけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加し、同業他事業者の職員と交流をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安による帰宅願望が薄くなるように本人に寄り添い、既入居者との関係を取り持つなどの努力をしています。初期の段階では「施設サービス計画書」に、環境に慣れるための個別サービスを設けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前のアセスメント時に、家族が心配なことや入所後の要望など受け、「施設サービス計画書」に反映しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からの質問や要望には丁寧に対応しています。入所初期には、ご家族へ本人の様子をこまめに伝えるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各人が役割を持てるようにしています。洗濯を干す係、たたむ係、食事の配膳・下膳をする係、食事の号令をする係、食器を洗う係などが自然と決まっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議へ出席などの協力を得ています。また、健康面では、皮膚科、眼科などの受診を依頼する場合があります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人、知人などの面会者が不快な気持ちにならず、再び面会に来ていただけるように接遇に注意しています。施設内の整理整頓にも気を配っています。	お仕事が得意な人には、ADLを押し重たく感じている物をお願いしているほか、社員食堂に勤務していた人は積極的に毎食後の食器をきれいに洗ってくれています。家族の支援で馴染みの美容院に通う人、海外に住む家族からの国際電話を定期的に受け取る人もいて、継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の周辺症状が強い入居者が孤立しないように、職員が間に入り支援しています。またトラブルが起きないように席順も工夫しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去したご家族から新規案件の紹介や、汚物処理用の古新聞を提供して下さいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアを行う会話の中から要望、不満に気づき、定例会議で改善案や提案を話し合う機会を設けて、ケアプランに反映させています。	想いを汲みとるための機会は特に設けてはいませんが、何気ない日常会話から「ラーメン食べたい」といった言葉を拾い実現しており、概ね「食」に関する声が集まっています。「俺はチンチンのものがいい」という人には、必ずお茶とみそ汁を温めなおすなど、個別に対応しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシート、アセスメント情報は共有できる環境にあります。日々の会話で得た情報は支援記録として記録し情報共有を図っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共通ケア、個別ケアともに生活管理票としてデジタル化しており共有できる環境です。心身状態や機能向上、低下は支援記録として残し、サービスの改善に繋げています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、必要なサービス変更を話し合い改善に努めています。また、必要に応じて家族に同意や協力を得ています。	各ユニットに計画作成担当者を配置、介護支援専門員は本月10日ほど勤務の職員が担当しています。毎月のカンファレンスで職員個々の意見を集約、記録からも状態確認のうえ、計画作成担当者がモニタリング～策定まで責任もっておこない、介護支援専門員の指導を仰いでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づき、主治医の指導、助言、看護師の見解などはすべて記録に残し、サービスの改善に繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを提案し、各人が満足できるように努めています。また、外出支援(無料、有料)など、本人の希望をお聴きし、数人単位で外出をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	浜松市ささえあいポイント事業に参加し、ボランティアによる演芸披露などがあります。また、施設前にある寺院や、近所のオープンガーデンなどは散歩コースとして利用させて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力のもと、2名が入所前の主治医へ受診しています。他の入居者は往診医を利用しています。往診医の場合、必要に応じて医師の助言、指導を家族へ伝えています。	協働医が高齢となり診察や夜間対応できないため、17名が訪問診療可能な医師に切替えています(1名が在宅の頃からのかかりつけ医)、現在では24時間オンコールの医療体制が整っています。月2回の診療には法人勤務の看護師と管理者のシフトを調整して立ちあい、連携を密としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、看護師が来所し入居者の健康チェックや巻き爪などの処置を行っています。医療に関する相談や助言を受けてケアに反映しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、経過、症状、治療状況を、ご家族に確認しています。退院前もアセスメントを行いご家族、看護師との連携に努めています。必要に応じ病院内での担当者会議を依頼しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人に生命活動の低下が表れた場合、早めに家族に今後の生活について相談しています。本人をメインに考えた支援ができるように努めています。	重度化した場合、家族には「病院」「自宅」「事業所」どこを希望するかを予め確認しています。過去には一週間泊り込み、鋭意協力くださった家族もいましたが、事業所から特に要請はしておらず、また近年は移設退去のケースが増えています(介護度3になると特別養護老人ホーム等)。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル、緊急連絡網を準備しています。また、慌てず的確な対応が行えるように定期的に研修を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に立ち合いを依頼し、防災、火災の避難訓練を実施しています。地区の防災訓練に参加し事業所の存在をアピールしています。	消防者の指導を求めている法定訓練を実施しています。停電が発生しやすい地域で、以前の5日間の大停電では、法人内事業所からの物資とプロパンガスが機能して調理は可能となり、なんとか乗り切っています。今後は時節がよくないケース等条件を考慮して準備を進めたいとしています。	大規模災害への備えとして十分な備蓄が用意されることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを害さないように、声掛けには注意しています。特に排泄介助は自尊心を傷つけないように気を付けています。	散歩したい気持ちに応えられないとき、つい「ちょっと待ってて」と発してしまうため、気持ちを害さない声かけを検討しています。また、自室以外の居室に出入りしてしまう利用者の症状に対して要望があったことから、夜間の巡視増加とともに鍵付きのドアノブに取り換えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日常の会話から本人が思っていることを感じ取れる気づきを大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当日の本人の様子によって、起床、就寝、食事などの時間を柔軟に変更できるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な身だしなみを保つように支援しています。女性は外出支援のときに化粧をして気分を向上して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスを利用し、毎回バランスの取れた食事を提供しています。食事前には代表者が「いただきます」の号令をかけて下さいます。下膳、食器洗いなど入居者と共に行っています。	法人内配食サービスを利用、レトルトの形態で配達されています。不定期ですが、カレーパーティーやおやつ作りとしてお汁粉やホットケーキ、白玉だんごなど手作り調理があるときは、利用者もエプロンをつけて参加しています。また誕生日は一皿加えるリクエストに応えています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分補給量は記録管理し、適切な量を提供できるように努めています。嚥下状態に合わせ、キザミ食、粥などに変更しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、就寝前の義歯洗浄を実施しています。口腔内が清潔に保てるように支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のタイミングを記録しパターンを確認しています。尿意や便意が薄い入居者様は「定期的にトイレ誘導、排泄交換を実施しています。	排泄チェック表でパターンを掴み、定時誘導とともに本人の排泄リズムに合った誘導をおこなうことで失禁回数を減らしています。また誘導は、一人ひとりの排泄リズムがタブレット画面に表示されるため、確実です。トイレでの排泄が難しくなり、日中はテーブル式の5名はベッド上での交換です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を記録し、個々の排便の間隔を確認しています。排便がない場合は水分補給の声掛けや主治医の指示の下に下剤のコントロールをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴支援は主に午前中に実施しています。無理強いせず、本人の気持ちを確認してから支援しています。また身体能力に併せ、シャワー浴、足浴、清拭などを実施しています。	入浴の時間帯は午前としていますが、自立度が高いと好みの時間を選んでもらうことができます。拒否のある人には職員や時間を替え工夫に努めており、中には「先生(医師)が～」という言葉に従ってくれる人もいます。濁りのあるものは避け、季節ごとに複数の入浴剤を用意しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様により加齢で体力の低下がみられたり、褥瘡予防のため日中も横になり休むようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者が服薬している内容について理解しています。変更になった場合は特に経過観察に注視しています。また嚥下状態に合わせ錠剤から粉末へ変更するなど主治医に相談させて頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様に各々の役割をお願いしています。洗濯を干すチーム、たたむチーム、食事の配膳、下膳、食器洗いなど積極的に参加して下さいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や本人の体調をみて、散歩にできるように心がけています。直近では入居者様のリクエストからラーメン屋へ外出するレクリエーションなど企画しました。	散歩で馴染みとなったオープンガーデンのお宅ではベンチを用意していただき、休憩しながら楽しめています。家族の協力により、スーパー銭湯に行く人、外食に出かける人も5名ほどいます。年間の外出行事は現在法人で統一すべく整備中ですが、花見などへ継続しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の持ち込みは基本的にお断りしています。入居者、家族には紛失などの金銭トラブルの回避について理解を頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの発信は、支援できていない現状があります。手紙、はがきなどの取次は実施しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の希望で福祉体験学習で生徒さんと作成したクラフトを掲示しています。またトイレ、自室、トイレには表札を付けています。	開設14年となり痛みもできたため順次修理しており、今年度は浴室のタイルをリフォームし、クーラー交換、建付けの悪くなった扉の修繕をおこなっています。玄関には季節ごとに雛段、兜、凧、七夕、クリスマスツリーを飾っていて、雛飾りは段飾りを張り切って組み立てる利用者もいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士を同じテーブルにするなどの配慮をしています。特別な事情がない限り、もう一方のユニットの入居者様の出入りも自由になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際になじみの家具や食器を用意して頂いています。家族の協力もありお孫さんの写真や学校で作った工作など持ち込んで下さいます。	ベッドは持ち込みですが介護用が必要となった人には法人内の別事業部でリースしています。また布団での寝起きをおこなう人も2名います。仏壇に毎日水とご飯をお供えすることを介護計画書に盛り込んでいた人もいますが、現在は、認知症の進行とともに途絶えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札を作成し、自室がわかる様にしています。テーブル席も名前を付けています。ご利用様の状態に合わせて歩行補助器を活用しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102071		
法人名	株式会社 アイケア		
事業所名	グループホームあいの街高塚 Bユニット(東棟)		
所在地	静岡県浜松市南区高塚町4514-1		
自己評価作成日	令和2年2月28日	評価結果市町村受理日	令和2年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2277201071-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様が安心して生活できるように接遇マナーに注意すると共にご本人の言葉に耳を傾け、希望に沿えるように努力しています。職員の定着率も高く、馴染みの顔が支援することで、ご入居者様が安心してサービスを利用して頂いていると思います。また、清潔感のある空間を提供できるように施設内外の清掃、整理整頓に心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR高塚駅から徒歩5分というアクセスの良さとともに、玄関前の寺院の借景や散歩コースにあるオープンガーデンなどの社会資源に恵まれ、閑静な住宅街にある事業所です。平均介護度は2.2ですが、要介護1~2と4~5の利用者にとり極端に分かれており、重度者の介護に時間を要する厳しい職員体制で外出支援が儘ならないことが課題です。それでもADLの高い利用者への支援が後追いとならないよう、気の合う人同士での会話を仕向けたり、ペットボトルの蓋で作った手作りパズルに取組んでもらったりと、現場の職員が工夫してその人が専念できる仕事やレクリエーションの提供に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の時に「社是」、「あいの街高塚理念」を復唱し、共有を図っています。本社より配布される「職場の教養」を読み上げ、職員が気づきを得るように努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に出席して頂いています。毎年の町内の祭りでは子供会が施設正面で手踊り、太鼓を披露するなどふれあいがあります。事業所はトイレ休憩所を兼ね開放しています。近隣住民の方との日頃の挨拶は職員全員が意識して行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談に来所された方への対応や、市内の中学校2校の福祉体験の受入れを実施しています。施設側からの発信が不足していると反省しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の利用状況、施設の取り組み、行事報告、事故報告を行い、助言や情報などを受けて改善に繋げています。事故報告は原因、改善策を示し、意見を頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、身体拘束適正化委員会に参加頂き、事業所の取り組みについて報告を行い、必要に応じて指導、助言を頂いています。また包括支援センターが開催する研修に参加し地区民生員との交流に努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会議にて、一般職員を含め、身体拘束適正化委員会の検討内容を話し合いをしています。また年2回の身体拘束にかかる研修を実施しています。玄関の施錠は防犯のため実施しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止の一環として高齢者虐待防止法の研修をしています。また職員同士が互いに指摘しあえる環境作りに努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の仕組みや日常生活自立支援事業など理解を深めるために勉強会を開催しています。現時点では制度を必要とする入居者様はいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を説明を行うときに、項目の都度、質疑に対応しています。法改正などによる契約変更の場合は書面をもって説明を行い、必要に応じて同意書を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の様子を写真とお便りで家族に伝えています。家族への依頼なども記載する時があります。面会時や電話などで相談を受けた場合はできる限り要望に沿うようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	休憩時間にコミュニケーションを図ると共に、連絡ノート、朝礼を利用して職員の意見を吸い上げ定例会議で話し合いを行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の面談を利用して挑戦したい事、不満の有無などを確認しています。最低年5回、希望日の有給取得を実現しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、社内研修、外部研修の機会を設けスキル向上に繋げています。日々のケアで改善点があれば指摘するように心がけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加し、同業他事業者の職員と交流をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接は2名以上で対応しています。収集した情報を基に、サービス計画を作成して安心できる居心地のよい空間を提供するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族の思い、不安なこと、心配なこと、要望などをお伺いし、施設でできる事を説明させて頂き、入居後の不安の軽減に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からの質問や要望には丁寧に対応しています。入所初期には、ご家族へ本人の様子をこまめに伝えるようにしています。初期段階の面会も受けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干す、たたむなどの家事手伝いを職員と行っています。調理レクリエーションの機会を設け一緒に料理をするなどの支援をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議の出席や衣替えの依頼などの協力を得ています。面会時など可能な限り家族と信頼関係を築くようにしています。お便りやメールで入居者の近況報告をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者の帰り際にお礼と再訪問のお願いをしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大きな声がでてしまう入居者様を職員の側で見守るなど、自立度が高い入居者様が不快にならないように注意します。またユニット間の往来も自由にはしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去したご家族から訃報の連絡を頂いたり、対処された方のご家族が職員を尋ねにくることがあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活を見守る中で改善案があれば提案しプランに反映しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時になじみの家具や食器を準備して頂くなど、環境の変化が軽減されるようにしています。職員はアセスメント情報は閲覧ができます。過去の生活歴や得手不得手など情報が入った場合は職員間で共有するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活管理表を記録することで個人の生活ペースを把握するようにしています。座位が安定しない入居者にリクライニング車椅子を用意して安全確保に繋がりました。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、必要なサービス変更を話し合い改善に努めています。また、必要に応じて家族に同意や協力を得ています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づき、主治医の指導、助言、看護師の見解などはすべて記録に残し、サービスの改善に繋げています。共通認識したい事項は連絡ノートへ記載し共有を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が熱中できるレクリエーションを模索したり、園芸を誘うなどの個別ケアを行っています。古着の子供服をたたむレクリエーションやペットボトルのふたで作ったパズルなど工夫しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	浜松市ささえあいポイント事業に参加しています。また、施設前にある寺院や、近所のオープンガーデンなどは散歩コースとして利用させて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別契約の往診医を利用しています。職員は往診医へ変化などを伝え、医師から助言、指導を頂いています。急変時の対応なども予め家族に了解を得ています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、看護師が来所し入居者の健康チェックや巻き爪などの処置を行っています。医療に関する相談や助言を受けてケアに反映しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、経過、症状、治療状況を、ご家族に確認しています。退院前もアセスメントを行いご家族、看護師との連携に努めています。必要に応じ病院内での担当者会議を依頼しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人に生命活動の低下が表れた場合、早めに家族に今後の生活について相談しています。本人をメインに考えた支援ができるように努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル、緊急連絡網を準備しています。また、慌てず的確な対応が行えるように定期的に研修を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に立ち合いを依頼し、防災、火災の避難訓練を実施しています。地区の防災訓練に参加し事業所の存在をアピールしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が優位な立場にならないように気を付けています。敬語を使うと距離感がでる方には、気さくな言葉かけをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り、本人の希望に添えるようにしています。着替えの選択も2択にするなどの工夫をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	深夜まで寝付けない入居者とホールで共に過ごしたり、気分や体調によって食事時間をずらすなど個々のペースにあった支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を予約するなどの支援をしています。洋服も好みに合わせてお気に入り着て頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスを利用し、毎回バランスの取れた食事を提供しています。禁忌食や好みに合わないものは代替品を用意します。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態に合わせ、ミキサー食、キザミ食、トロミなどの加工をして提供しています。摂取量は生活管理に記録し必要な確保ができるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを実施しています。必要に応じて訪問歯科を依頼したり、家族に受診をお願いしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のタイミングを記録しパターンを確認しています。尿意や便意が薄い入居者様は「定期的にトイレ誘導、排泄交換を実施しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を記録し、個々の排便の間隔を確認しています。排便がない場合は水分補給の声掛けや主治医の指示の下に下剤のコントロールをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は午前中に実施しています。ケアに余裕があるときは、午後にも希望者を入浴支援することがあります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	除圧のため日中でも横になってもらう方や、本人の希望で昼寝をする方もいます。夜間眠れない方も睡眠導入剤などは、なるべく使わないように日中は覚醒するように声掛けをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者が服薬している内容について理解しています。誤薬防止のため個人別に小袋に分類したり、飲みこぼしがないように飲み込むまで見守りをします。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様に各々の役割をお願いしています。洗濯を干すチーム、たたむチーム、食事の配膳、下膳、食器洗いなど積極的に参加して下さいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外で洗濯を干したり、時間を作り散歩へ行くなどの努力をしています。家族の協力のもと、定期的に外出する方もいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の持ち込みは基本的にお断りしています。入居者、家族には紛失などの金銭トラブルの回避について理解を頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要求があれば家族へ電話することもあります。家族からの国際電話の取次もあります。家族から手紙セットを預かっている方もいますが、本人が積極的でないため実現できていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁紙(クラフト)を入居者様と作成し掲示しています。天窓から光を取り入れるなど明るく過ごせるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席次を工夫しています。居室からの動線や人間関係を考えています。玄関内のいすやソファなどのパーソナルスペースを確保できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際になじみの家具や食器を用意して頂いています。家族の協力もありお孫さんの写真や学校で作った工作など持ち込んで下さいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札を作成し、自室がわかる様にしています。テーブル席も名前を付けています。ご利用様の状態に合わせて歩行補助器を活用しています。		